

平成27年9月20日（日）
可児市教育委員会

○今年度の調査について

調査遺跡 弥七田古窯跡（連房式登窯）
「弥七田織部」という特有の織部を焼いた窯跡としてしられる。

調査目的 弥七田古窯の窯の位置、構造確認。
遺跡の範囲及び周辺施設の確認。

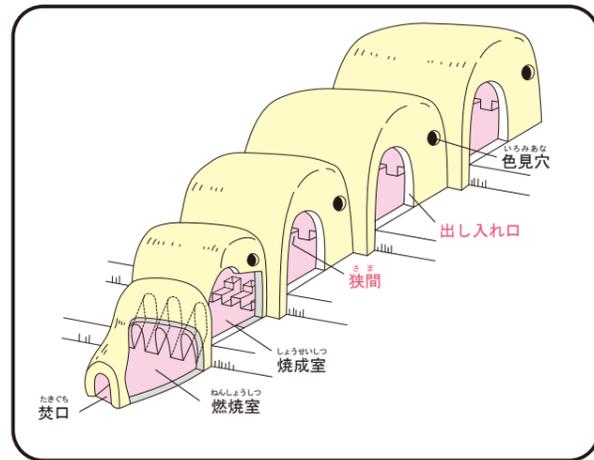


弥七田織部菊皿

織部はゆがんだ形の茶碗や扇子や舟の形をした具象的なデザイン、幾何学模様などの絵付け、多彩な色彩をもった焼物です。織部の後半に当る弥七田織部は、その筆のタッチと緑釉のたらし掛けにも特徴があります。精巧で薄作りの器体に赤や茶色の点や線を効果的に用い、文様を描いています。

○連房式登窯とは

- 16世紀末に大窯に代わる新たな窯として朝鮮半島より唐津へ技術が伝わり、その後美濃や瀬戸で操業がされました。
- たくさんの部屋が連なって窯体を形成します。部屋ごとに入出口があり、製品を出し入れしていました。焚口でおこされた炎は、部屋の境の下方に開けられた穴を通して、部屋を順番に伝わっていきます。下部の部屋が焼き終わると、途中の部屋の横からも薪を入れることができます。

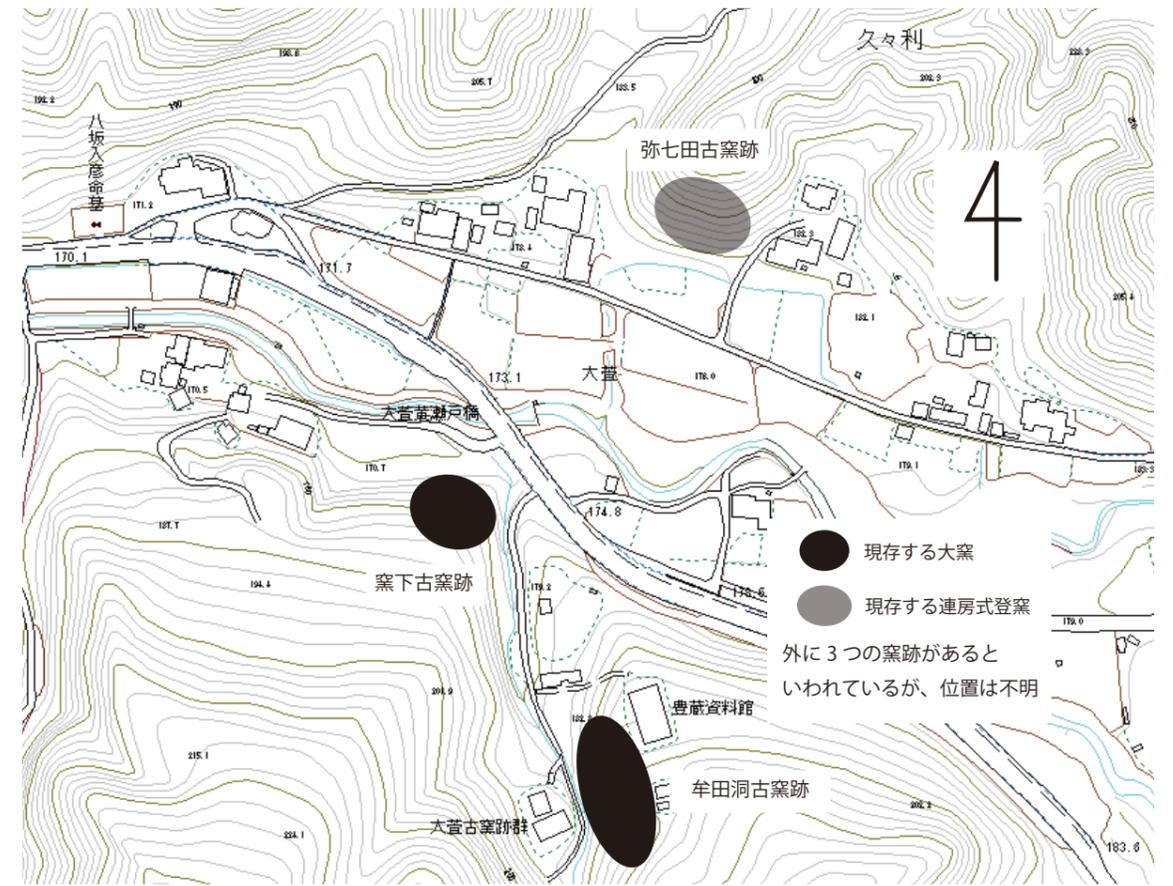


さま 狭間…下の燃焼室のガスを上の焼成室へ導く通気孔
たきぐち 焚口…燃料投入口
しょうせいしつ 焼成室…製品を焼く場所
ねんしょうしつ 燃焼室…燃料が燃える場所
いろみあな 色見穴…焼成中の確認の穴

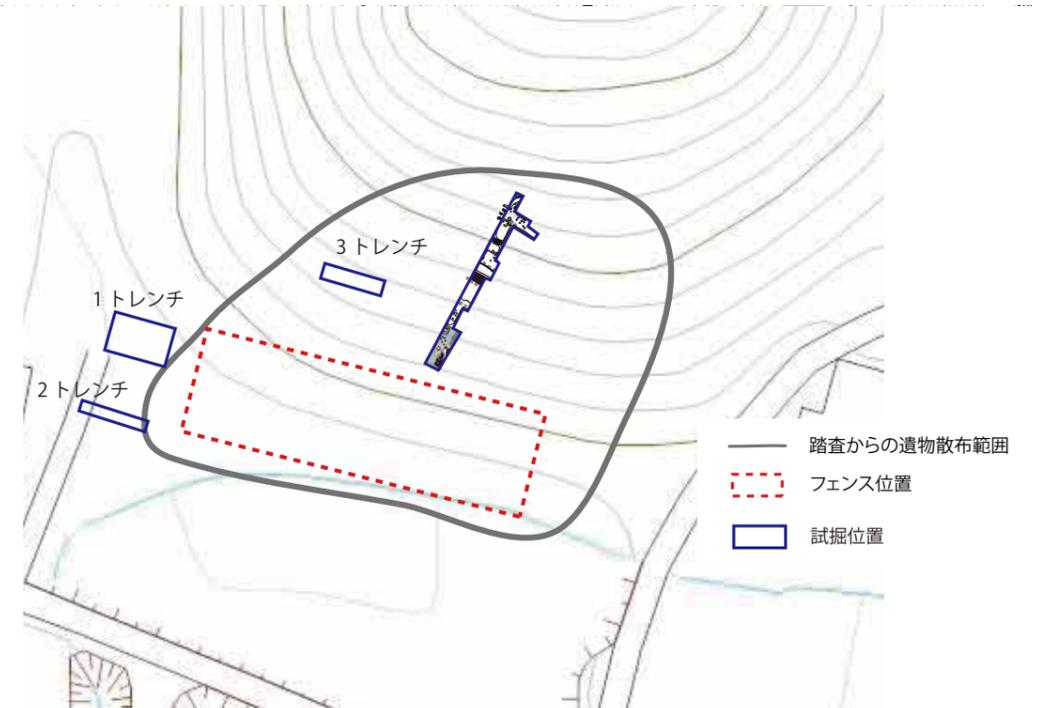
《弥七田織部が焼かれた時代》

- 弥七田窯が築かれた時期は17世紀前葉と考えられます。江戸では三代将軍徳川家光が、幕府の基礎を築いた時代です。武士の教養として、将軍家や武家における茶の湯が盛んな中、美濃焼は日本の文化の中心である京や大坂でも、有力商人等の中で人気でした。

可児市は大萱古窯跡群の調査を平成24年度より行ってきました。牟田洞、窯下、弥七田の各古窯跡を保存するため、国史跡指定を目指しています。



大萱古窯跡群窯跡位置図 (S=1/3000)



弥七田古窯跡 調査箇所 0 40m

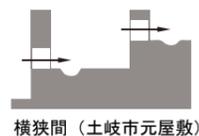
○調査によってわかったこと

☆連房式登窯を2基確認

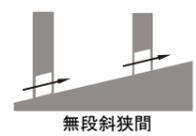
- 1号窯 □無段斜狭間構造、残存長は水平距離で約12.7m
 - 確認できる窯の幅は煙出し部分付近で約2.5m
 - 1室の長さは水平距離で約1.6m、床面傾斜は約25°
 - 製品を焼く部屋は少なくとも7室以上
 - 床面には焼台や、各部屋の境に角柱や丸柱がみられる
- 2号窯 □有段斜狭間構造、残存長は水平距離で約3.0m
 - 燃烧室（約1.3m）と焼成室第1室（1.5m以上）を確認
 - 焼成室2室以降はすでに消滅している

※天井の構造は2つの窯とも不明。

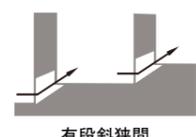
美濃で初めに造られた土岐市元屋敷窯は肥前の窯からの技術導入である横狭間構造です。
これに続く弥七田1号窯と2号窯は斜狭間構造であり、美濃や瀬戸ではその後、縦狭間へと移行します。



横狭間（土岐市元屋敷）



無段斜狭間



有段斜狭間

☆出土遺物

- ・天目茶碗や鉄釉や長石釉の碗類が多く出土している。全面に釉薬を塗った碗や鉢もみられ、高級品を目指したことがうかがえる。
- ・弥七田織部、播鉢、皿類は少数しか出土していない。
- ・大窯製品の可能性がある灰釉折縁皿や志野も出土している。
- ・窯道具に牟田洞古窯跡、窯下古窯跡と同じ窯記号（「千」、「八」）がある。

☆調査のまとめと課題

- ・1号窯の上に2号窯を造っている。（1号窯が古く、2号窯が新しい）
- ・1号窯の保存状態は非常に良い。
- ・二つの窯跡は短い期間に造られ、時期は17世紀前葉のころと考えられる。
- ・内部の構造の詳細や出土品に関して、今後の課題もみられる。

往路】 【復路】

久々利公民館駐車場 発車時刻	現地説明開始時刻
13:00	13:20
13:30	13:50
14:10	14:30
14:40	15:00

荒川豊蔵資料館前 発車時刻
14:00
14:30
15:10
15:40

時間はあくまで目安です。
遅れる場合もあります。

